

弘前大学生へのアンケートからの研究報告

弘前大学マーケティングゼミナール3年

小野寺朋耶

野呂 善行

伊藤奈菜子

弘前大学マーケティングゼミナール4年

小田 裕介

西村 大地

増川 遼太

渡邊 翼

指導教員 弘前大学人文学部教授

保田 宗良

目 次

第1章	研究の目的	37
第2章	予想される結果と意義	37
第3章	調査内容	37
	3-1 アンケート概要	37
	3-2 アンケート調査票	37
	3-3 調査対象の属性	38
第4章	調査結果とその分析	39
	4-1 公共交通利用状況	39
	4-2 関心と満足度	41
	4-3 KJ法的分類	44
	4-4 黒石市・平川市に関する少数意見	45
第5章	小括	46
	5-1 明らかになったこと	46
	5-2 求められる追加調査	46
	謝辞	46

第1章 研究の目的

弘前市における最大の事業体である弘前大学では、大学キャンパス内に4,000台を超える自転車が駐輪されている。これらが冬季・積雪時に利用が困難になった際、弘前大学生は公共交通を利用しているのか、また、弘前大学生の中でどの程度が公共交通を利用しているのかをアンケートによって調査し、その意見を集めることで今後の弘前市のまちづくりの一助となる資料を作成することがこの研究の目的である。

第2章 予想される結果と意義

今回のアンケート調査では、以下の結果が予想される。

- 1) 冬季の自転車利用者の減少
- 2) 公共交通利用者の増加
- 3) 冬季の公共交通への満足度の低下

これらの結果から、冬季と冬季以外での公共交通の利用状況とその推移を明らかにする。

第3章 調査内容

3-1 アンケート概要

今回の調査はアンケートを用いて行った。以下がその実施・概要である。

題：「公共交通に関する意識調査」

調査場所：弘前大学構内

対象者：弘前大学在学学生

実施期間：2015年1月20日(火)～2月6日(金)

有効回答者数：357名(男性179名 女性178名)

3-2 アンケート調査票

調査に用いたアンケート調査票は、次ページに示した(図1)。

問2 大学までの通学方法を教えてください(複数回答可)

冬場(積雪時)

1. 徒歩 2. 自転車 3. 鉄道 4. バス 5. 自動車 6. オートバイ

冬場以外(非積雪時)

1. 徒歩 2. 自転車 3. 鉄道 4. バス 5. 自動車 6. オートバイ

問3 弘前市内の公共交通に対する関心を教えてください

1. 関心がある 2. すこし関心がある 3. あまり関心がない 4. 関心がない

問4 弘前市内の公共交通の満足度を教えてください

冬場(積雪時)

1. 満足 2. やや満足 3. どちらでもない 4. やや不満 5. 不満

冬場以外(非積雪時)

1. 満足 2. やや満足 3. どちらでもない 4. やや不満 5. 不満

図1 アンケート調査票(一部抜粋)

なお、「問1」で聴取対象の属性を特定し、「問5」は通学时・通学时以外での公共交通に対する意見・要望を自由記述とした。また、黒石市・平川市から通学している学生に対してのみの質問項目として、黒石市・平川市内の公共交通に関しても意見・要望を自由記述とした。

3-3 調査対象の属性

前述した問1より得られた調査対象の属性は以下のようであった。

学生

1	48
2	78
3	125
4	94
院	6
未記入	6
計	357

学部

人 文	141
理 工	50
農 生	45
教 育	48
医 学	67
院	5
未記入	1
計	357

実家生か否か

実家生	87
実家生でない	261
未記入	9
計	357

第4章 調査結果とその分析

4-1 公共交通利用状況

調査票「問2」より得られた弘前大学生の通学手段は以下の通りである。図2-Aでは冬季以外(非積雪時)、図2-Bでは冬季(積雪時)をそれぞれグラフで示した。なお、複数回答が存在し、数値の和は有効回答者数に一致しない。

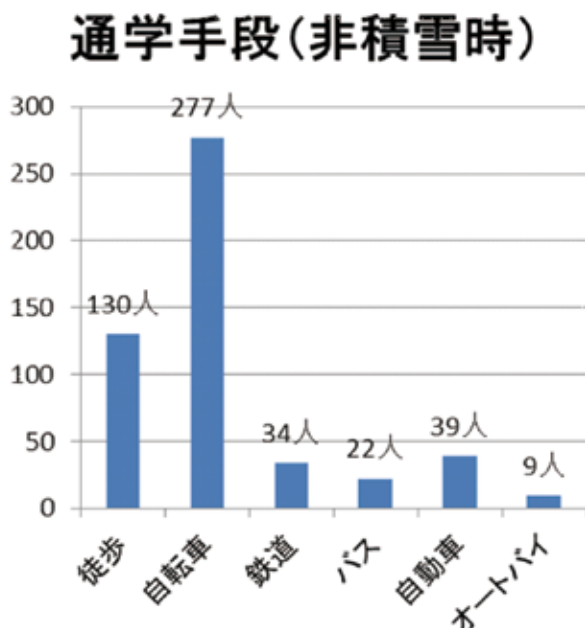


図2-A 弘前大学生の非積雪時の通学手段

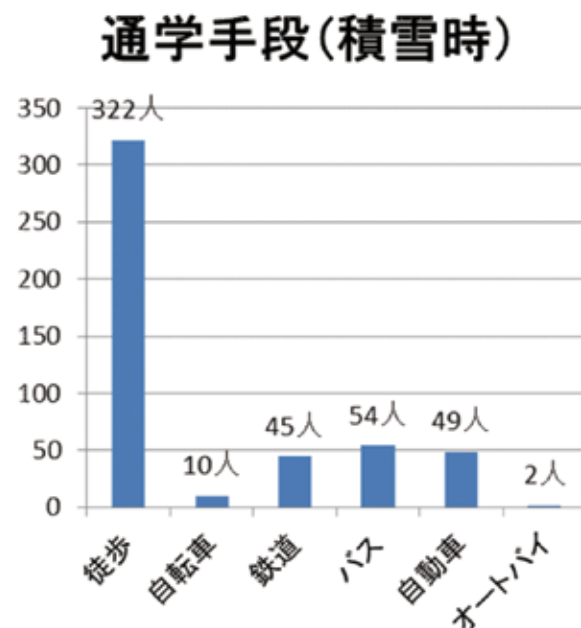


図2-B 弘前大学生の積雪時の通学手段

非積雪時のグラフからは、弘前大学生の多くが自転車で通学していることがわかる。次いで徒歩での通学が多く、これらは大学キャンパスまでの距離がそれほど離れていないことが背景にある。

一方で、積雪時には自転車の使用者は大幅に減少する。徒歩での通学が主流となるが、同時に鉄道・バスの利用者数も増加しており、冬季の自転車利用者の減少と公共交通の利用増加という当初の予想がある程度妥当していることがわかる。

では、この多くの自転車利用者は冬季にどのような交通手段を選択しているのか。それを示したのが次のグラフである(図3)。

自転車使用者の積雪時の交通手段

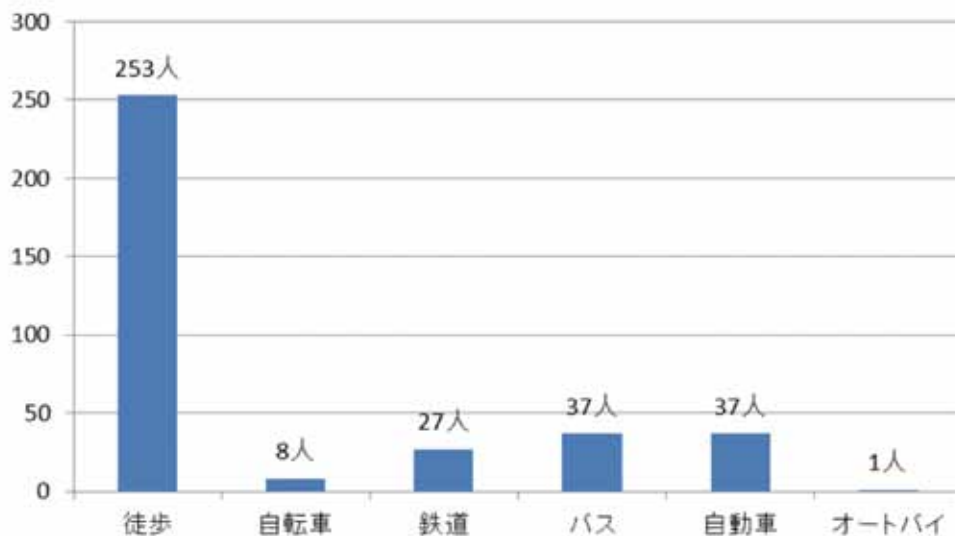


図3 自転車使用者の積雪時の交通手段

このグラフは冬季以外で自転車を使用すると回答した学生のみを抽出して、冬季の交通手段を表している。鉄道・バス共に、自転車の代わりに公共交通を利用する学生は1割程度である。

ここまでのグラフは、比較的大学キャンパスに近い位置に居住している学生がサンプルの大半を占めている。こうした条件に当てはまらないと考えられる実家生について、冬季にどの程度の学生が公共交通を利用するのかという増加率を、次のグラフで示した(図4-A, 図4-B)。

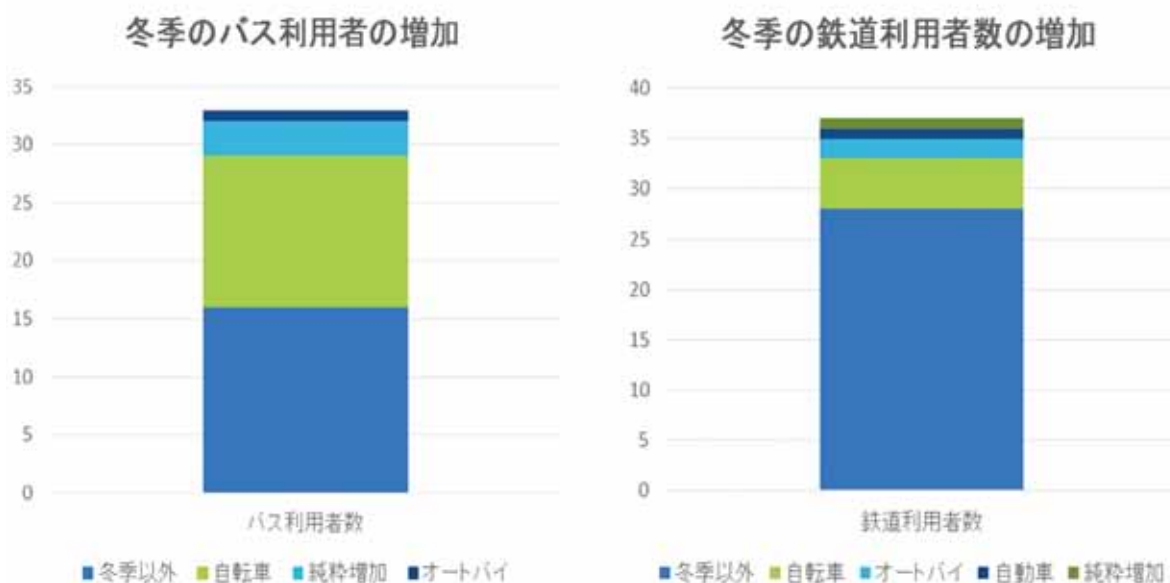


図4-A 実家生の冬季のバス利用増加率

図4-B 実家生の冬季の鉄道利用増加率

図4-A、並びに図4-Bは、冬季以外でも一貫してバス・鉄道を利用している学生を下部の層に配置し、その上層部以降を冬季になって利用を開始した人数としている。「自転車」「オートバイ」などの項目は、冬季以外に利用していた交通手段であり、冬季にはこれらの交通手段の代替として公共交通を利用していることを示す。なお、他の交通手段を保ちながら公共交通も利用している人に関しては「純粋増加」とした。

グラフを見ると、自転車から公共交通への切り替えが最も多く、これは今回の調査で得られた傾向として全般に共通する。バスの利用者は、冬季には冬季以外の2倍、鉄道の利用者は、冬季以外の1.3倍に増加している。

4-2 関心と満足度

次に、弘前大学生の公共交通に対する関心と満足度についての調査結果を示す。まず関心についてであるが、総じて関心が高かった(図5-A)。

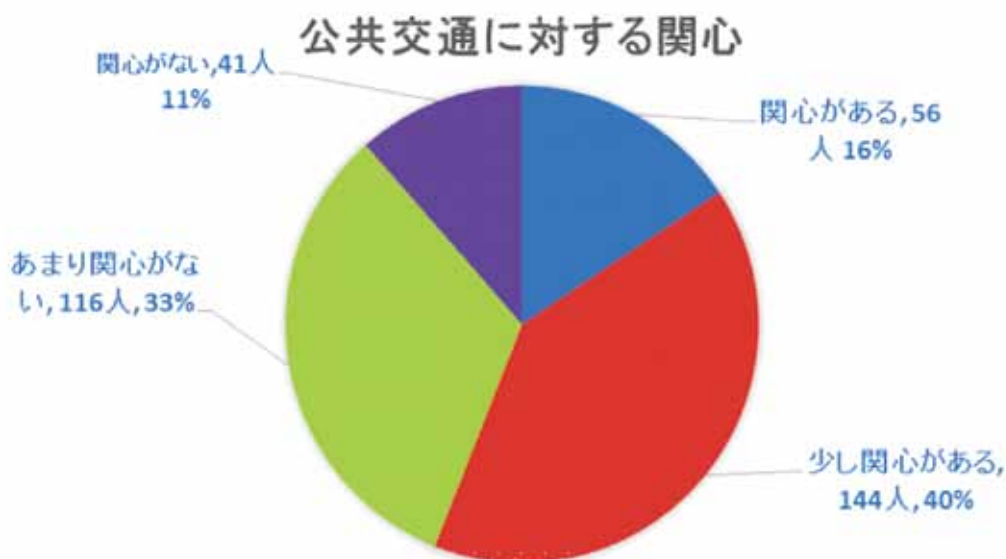


図5-A 弘前大学生の公共交通への関心

これは次ページにある通り、男女で区別しても同様の傾向が得られる。ただし、女性の方がやや関心が高く(図5-C)、男性は全体を平均した図5-Aに比べるとやや関心が低い(図5-B)。

このため、今後、公共交通の利用促進のための施策を講じる際には、女性を優先的に取り込むことが必要であると考えられる。

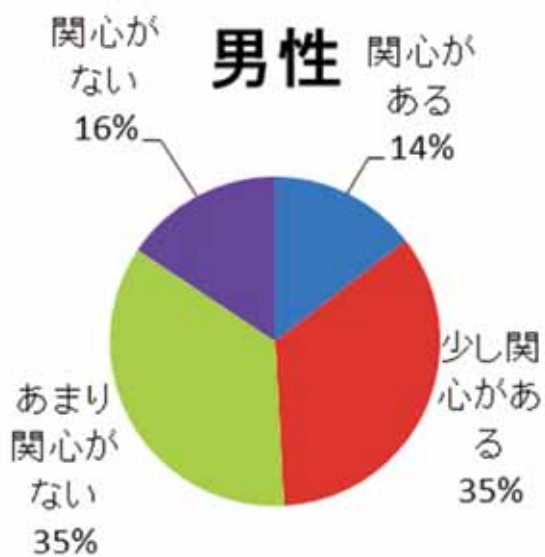


図5-B 男性の公共交通への関心

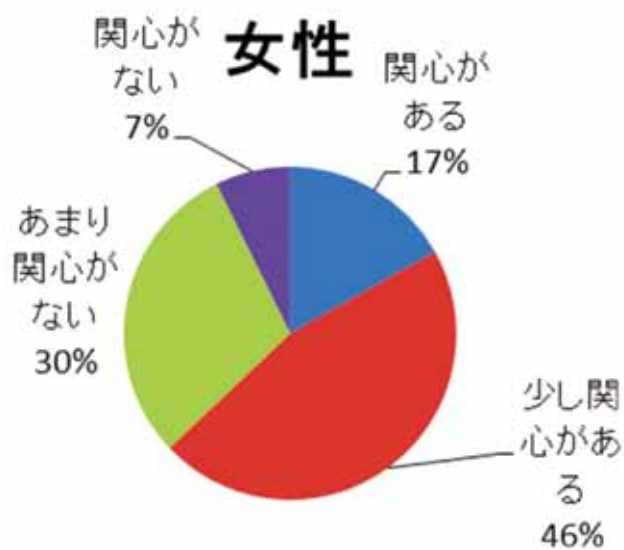


図5-C 女性の公共交通への関心

次いで、満足度について、積雪時と非積雪時、文京キャンパスと本町キャンパスの2軸で分析した。これは、主に本町キャンパスで活動する医学部生と、文京キャンパスで活動するそれ以外の学部生とを分けて満足度を測定するためである。その結果、非積雪時に関しては両キャンパスで満足度にほとんど差が見られなかった(図6-A、図6-B)。



図6-A 本町キャンパスでの満足度(非積雪時)

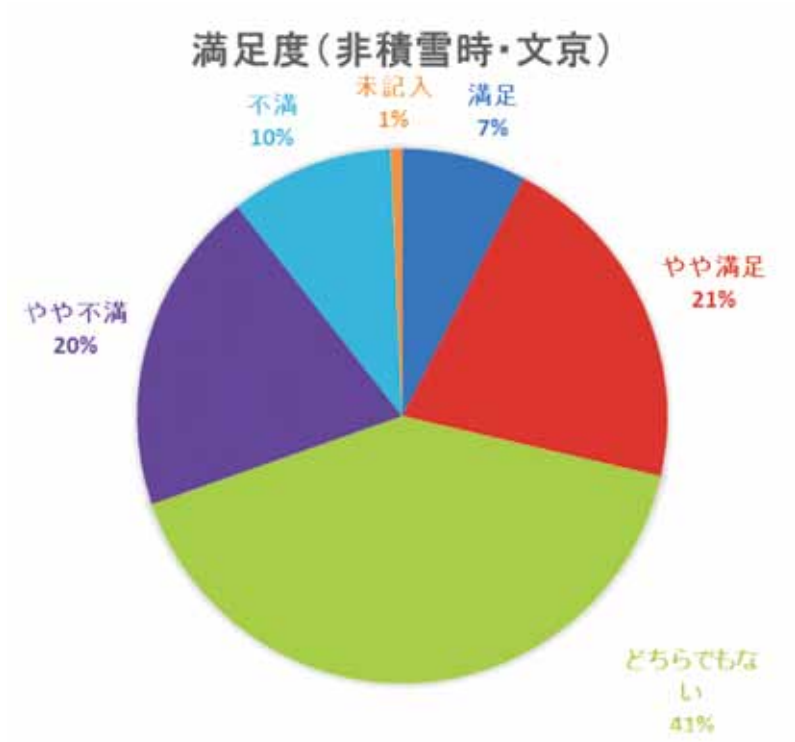


図6-B 文京キャンパスでの満足度(非積雪時)

しかし、積雪時には本町キャンパスで不満が高まっていることが判明した(図6-C)。

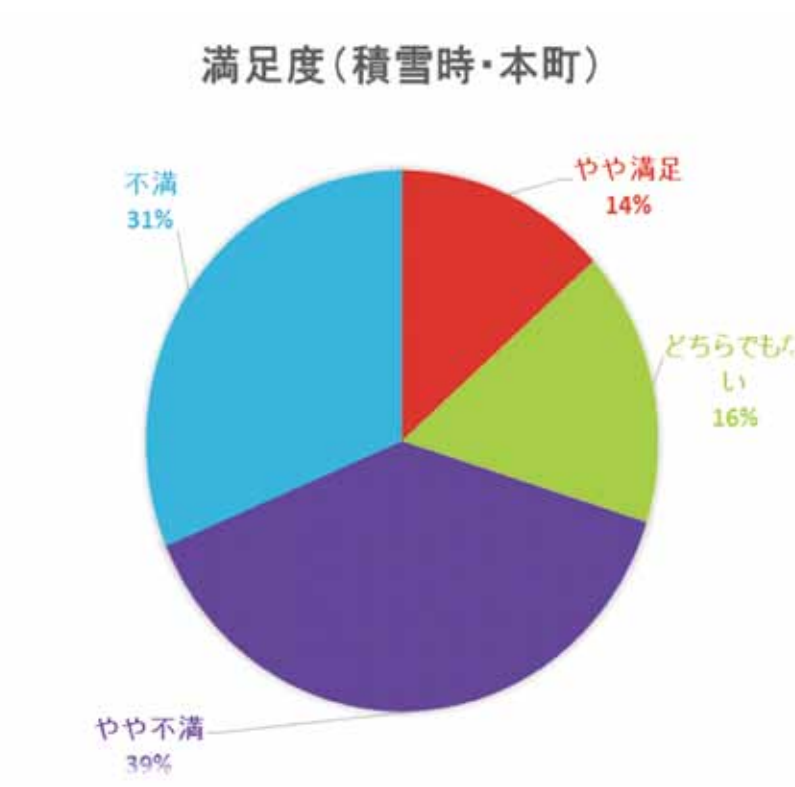


図6-C 本町キャンパスでの満足度(積雪時)

また、この満足度の低下は文京キャンパスでも同様である(図6-D)。

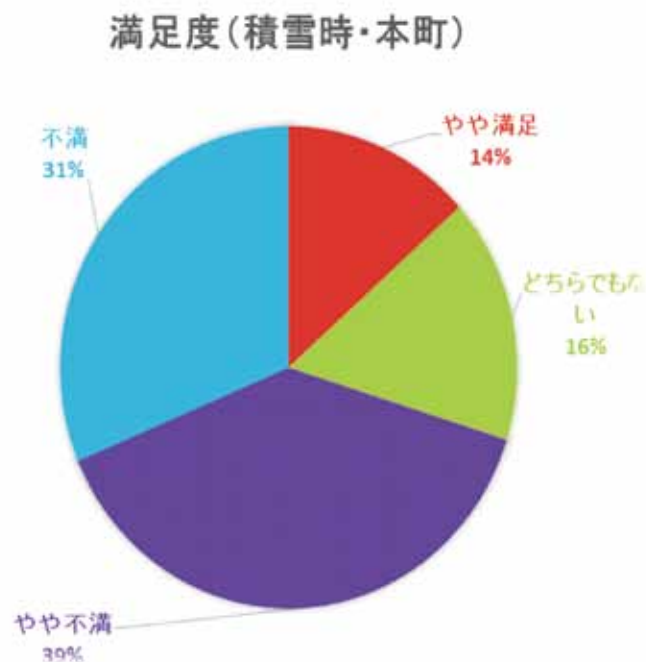


図6-D 文京キャンパスでの満足度(積雪時)

以上のことから、冬季・積雪時に満足度が低減するという当初の予想は証明されたが、それがどのような不満に起因するかは不明である。よって、自由記述の内容をKJ法的に分類し、具体的な意見・要望を抽出した。

4-3 KJ法的分類

次ページに、KJ法的分類を示した。その中でも特に大きな割合の意見を取り出すと以下の通りである。

■本数についての意見

バス・電車共に本数が少ない。

遅い時間のバス・電車が無い。

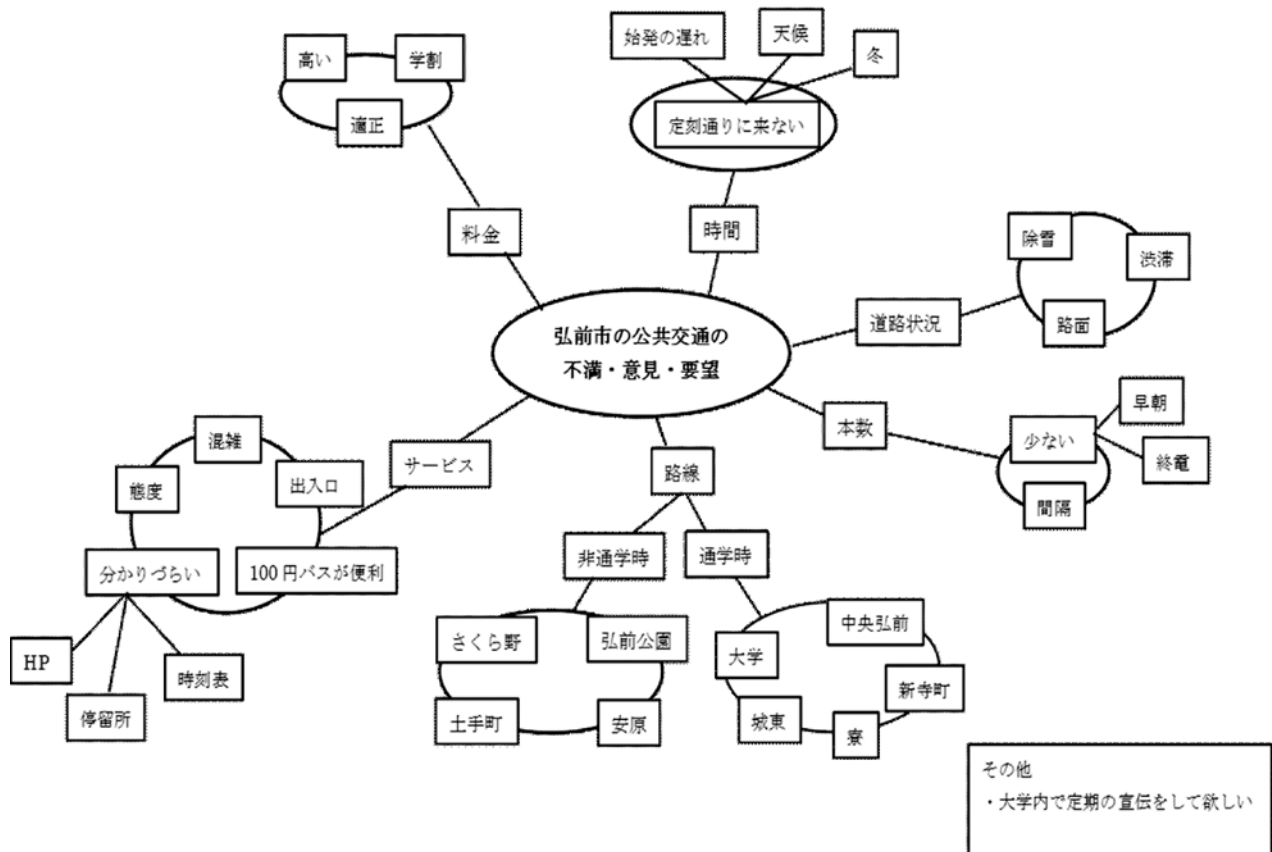
⇒全体の約2割を占める。

■ダイヤについての意見

バスが時間通りに来ない。

悪天候時・積雪時のダイヤの乱れが著しい。

⇒全体の約2割を占める。



また、全体を通じて運転手のサービスについての意見が2割程度見られた他、医学部生(本町キャンパス生)からは、学生寮と本町キャンパスとのアクセスの悪さを指摘する声も挙がり、「路線」に関する意見は18.4%に上った。

4-4 黒石市・平川市に関する少数意見

少数ではあるが、今回の調査で黒石市・平川市から通学している学生から、両市内の公共交通に関して意見を得られたため、参考として記載する。

黒石市について

- 道路が狭い、除雪が雑である。
- 最終電車が早いため大学に遅くまで残ることができない。
- ここ最近弘南線の車両故障が多い。そのために遅延が増えてきている。
- 電車の到着時間と、バスの出発時間が合わない。

平川市について

- 除雪、すれ違い時の配慮が不足している。
- 公共交通の料金が安い。
- 弘南鉄道の終電が早いと感じる。

第5章 小括

5-1 明らかになったこと

今回の調査では、弘前大学生の公共交通の利用は、冬季に増加していることが判明した。この原因は、弘前大学生の主要な交通手段である自転車が、積雪によって使用困難になることが挙げられる。

また、冬季には実家生の公共交通利用が大きく増加することがわかった。大学の周辺に居住している学生に比べて相対的にキャンパスまでの距離があるためであると考えられる。

関心と満足度については、弘前大学生の公共交通への関心は比較的高く、特に女性にこの傾向が顕著であった。一方で満足度は冬季に低下し、医学部生(本町キャンパス)で不満が高まっていた。また、満足度について、積雪時・非積雪時を問わず「どちらでもない」という回答が大きな割合を占めているが、これは関心の高さに反して実際に恒常的に利用している学生が多くないことによると思われる。

5-2 求められる追加調査

今回の調査では、通学時の弘前大学生の交通手段、並びに公共交通利用状況について数値的な結果が得られた。しかし、通学時以外については自由記述への記載に留まり、数値でのデータを得ることができなかった。これが第一の課題である。

また、今回は弘前大学生全体を対象としてアンケートを実施したため、医学部生、すなわち本町キャンパス生に関して、十分に大きなサンプルを得ることができなかった。地理的に文京キャンパスと異なる条件にあり、付近を100円バスが循環している本町キャンパスでは、より詳細な調査を行うことで今回とは異なる結果が得られると考えられる。

以上のことより、①非通学時の公共交通利用状況、②医学部生に対するより大サンプルでの統計的調査、を追加調査として行うべきであると考ええる。

ご指摘と謝辞

弘前市都市環境部都市政策課長 兼 交通政策推進室長 浅利 洋信 様

調査結果を元に背景のニーズを探るべきである、とのご指摘をいただいた。

中小企業診断士 栗村 圭一 様

弘前は周辺地域の“ハブ”的地域であり、周辺地域への二次交通・三次交通が利用者のニーズに合ったものであるかといったことも研究対象となるのでは、とのご指摘をいただいた。

黒石市企画財政部企画課長 千葉 毅 様

冬季だけでなく、そのほかの季節についても利用状況を調査すべきである、とのご指摘をいただいた。

弘前商工会議所事務局長 橋本 広平 様

自らが利用者になることでわかる部分もあるのではないかとのご指摘をいただいた。

ご指摘をいただいた皆様に改めて御礼を申し上げます。